

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0770302438		
法人名	有限会社 アルコップ		
事業所名	グループホーム 縁寿の園		
所在地	福島県郡山市中田町赤沼字瀬戸65番地1 (電話) 024-956-8115		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年8月21日	評価確定日	平成19年9月28日

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 3人,	常勤換算7.4人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名	
要介護1	1 名	要介護2	7 名			
要介護3	8 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	82 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石井住宅クリニック・太田西ノ内病院・長谷川歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設以来満2年を経過し、法人代表者(運営者)をはじめとして、管理者や職員一丸となつての企業努力がようやく実を結んできたところである。郡山市郊外、豊かな自然環境に恵まれ、利用者と職員が一体となった「縁寿の園」の暖かい家族のような関係に一步步近づいていると感じられた。経営者側はこの事業に対する並々な情熱と意欲を保持しており、地域との信頼関係も構築され、その行動力と指導力に期待している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	共用空間の異臭や空調の温度調整は改善されていた。運営理念については再度簡潔でわかりやすいものに訂正するよう検討してほしい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者ともに、自己評価と外部評価の実施の意義を十分に理解し、一つ一つの項目に対し、真摯に取り組んでいる姿勢が強く感じられた。特に、同業者からの情報収集に意欲的に取り組んでいた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	地域包括支援センターをメンバーとする運営推進会議の取り組みは徐々に軌道に乗ってきている。特に近隣の養護学校の先生方によるホームとの交流は地域密着型施設運営の基本的支援に繋がっていると思われる。運営者・管理者ともに地域との連携を大切にしており、信頼関係の維持に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会は出来ているが定例での会合に参加者は少ない。一部の家族から介護観の違いもあって、ケアのありかたについて意見の相違が見受けられた。運営推進会議や家族会等にも諮って、最終的には利用者ご本人の心に沿った支援を最優先と捉え、意見の共有を図って行っていただきたい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の一員でもあり、地域との交流は積極的に行なっている。月に1度の防災訓練には町内会の協力を得て常に連携を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の立派な理念は明示されているが文言が固苦しいので一見して理解が出来ない難がある。	○	誰が見ても一見一読して理解できる、判りやすい言葉と文字で表現してほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念そのものが長い文章で難しいため、理念の共有と実践には、更なる工夫が必要と感じた。	○	一口で言い表すことが出来るような、また親しみやすい理念を創りだし、全員で共有しながら日常のケアに取り組んでほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域密着を目指して、地元自治会、老人会、地域活動に積極的に参加し、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者ともに評価の意義は熟知しており、評価を活かした業務改善への意欲はひしひしと感じられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の運営推進会議は定期的に行われている。地域に密着したメンバーが揃っており、特に同町内の学校関係者の協力が心強く感じられたが、記録がきちんとなされていない。</p>	○	<p>運営推進会議の議事録は議題だけの記入に止めず、各委員の発言内容や提案理由、前回議案の結果報告など、取り組みの状況も記入してほしい。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者ごとに担当職員が決まっており、「縁寿の園だより」と近況報告を毎月定期的に家族へ連絡しているが、報告内容が不十分である。</p>	○	<p>個々の家族により、連絡に対する理解度が違うこともあるので、ケースごとに最善の方策を心がけてほしい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会は出来ているが、出席率は芳しくない。一部の家族からの意見や不満が見受けられるが、それらを運営に反映する仕組みになっていない。</p>	○	<p>家族からの意見や不満を記録し、運営推進会議で協議し、運営に反映するなどの仕組み作りをしてほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の定着率は2年目を迎えて安定してきており、スタッフ同士のフォローも出来ている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者とともに職員の研修やスキルアップには前向きであり、各種研修会には積極的に参加している。	○	管理者を含めて、スタッフの経験年数が若いので、さらにあらゆる研修機会を活用しながら全職員のレベルアップに努めていただきたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との情報交換の機会が少なく感じられる。	○	同業者との情報交換の機会を多く持ち、サービスの質の向上に向かって事業所全体の意識を高めて行っていただきたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの個性と尊厳を重んじ、常に信頼関係の構築に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望を把握しているとは感じられなかった。	○	職員は利用者個々人とゆっくり対話する時間を持ち、「その人らしさ」を個人別に把握するゆとりを持っていただきたい。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個々人の介護計画・記録簿は良く出来ている。ユニットごとのカンファレンスも出来ているが、カンファレンスの経過を盛り込んだ計画が少なく感じられた。	○	認知症介護研究・研修東京センター方式の導入などを検討していただき、利用者一人ひとりの日常生活の中から、その人らしさの再発見を記録し、更なる充実を目指していただきたい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間(3ヶ月ごと)に応じた見直しや、期間内の見直し等も行っているが、不十分である。	○	高齢の利用者にとって体調の変化はつきものです。認知症の中核症状の変化や体調の変化を見逃すことなく、常に現状に即した介護計画の見直しをしてほしい。
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の先生には2週間に1回往診に来ていただいている。その他のかかりつけ医の先生とも常に連携は取れている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた話し合いは行なっているが、具体的な「看取り介護の指針」は作成していない。	○	開所以来3年目を迎え、利用者の重度化・終末期に対する基本的な指針の策定は必要と思われる。グループホーム連絡協議会等からの情報を得て「指針」を策定し、家族の同意を得ておくことが望まれます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症高齢者への接遇マニュアル(ビデオ)などによる勉強会を行なっており、プライバシーの確保や個人情報の取り扱いにも留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切に、利用者の心に沿った個別性のある支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をとっているが、準備や後片付けの役割分担はあまり見られなかった。また、食事の時間が決まっており、時間内に終わらない場合がある。	○	食事の時間を決めるのではなく、利用者に合わせて柔軟な対応をしてほしい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴も可能である。本人の希望に沿って入浴を楽しんで頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者一人ひとりの残存能力や生活歴を十分に把握しているとは言えない。	○	1人1役を目標にして、毎日の生活の中で利用者全員になるべく1回以上の出番を作してほしい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	季節や天候を考えながら、散歩やドライブに出かけている。ホームの近くにある神社には散歩のコースとしてよく出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。玄関にはチャイムが付いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域からの協力・中田町第6班(10軒)の参加を得て、毎月1回避難訓練を行なっている。	○	今後は、火災訓練・地震訓練・夜間訓練・など災害の状況別に避難訓練を実施してほしい。
tyaimu ga					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	近隣の養護学校の栄養士の協力を得て、カロリー計算や栄養バランス等の教示を頂いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回の外部評価で指摘された共用空間での異臭や空調の温度調整が改善されている。また、今夏の猛暑対策もきちんと行われている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々人の居室はそれぞれの個性に合わせた住み慣れた馴染みの空間が出来ていた。また、前回指摘された特定の居室の異臭も解消されている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名	縁寿の園
記入担当者名	佐藤 卓也

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。